

「積丹地域における共同施業とストックヤードを 活用した共同販売の取組について」

石狩森林管理署 末廣雄二・積丹町役場 植野弘樹・北海道水源林整備事務所 佐藤賢二

研究の背景・目的

積丹地域の森林は、民有林は所有者毎の規模が小さく活用型の森林整備ができない。一方、国有林は奥地にあることから木材の搬出距離が長くなるという問題がありました。

このため、これらの課題解決に向けて平成20年度に積丹町・北海道水源林整備事務所・当署の3者において「積丹地域森林整備推進協定」（5年更新）を締結し、これまで路網の共同整備と利用を行ってきました。

さらに、平成30年からの協定3期目からは3者で共同施業での伐採と、そこから生産された木材をストックヤード（共同土場）を活用して共同販売するための取組を行ってきましたので報告します。



間伐が進む共同施業団地

研究の内容・成果

★取組を進める上で、積丹地域には林業事業者がなく、また木材の需要地から遠いことから次のような対策を取りました。

①輸送条件の良い立地に「ストックヤード」を整備

集落に近い舗装された公道沿いに、輸送効率の良い「大型トレーラー」が入ることができる「里土場」として「ストックヤード」（4.8ha）を整備しました。

②民国の森林整備を一体的事業とし共同で一般競争入札を実施

民国の森林を一体的な事業団地として集約し、伐採面積を大きくすることで、林業事業者が一定期間、他の事業地へ移動することなく効率的な作業が行える「物件」として入札参加意欲が高まるよう、また、コスト削減にもつながるよう民国共同での一般競争入札を実施しました。

③国有林材と町有林材の共同販売の実施

比較的少量な町有林材だけでは買い手がつきにくいことから、国有林材と共同で販売することとして大ロット化を図り、取扱量、集客量の大きい国有林素材公売での競争入札を実施しました。

★これらの取組によって次のような成果がありました。

①民国の事業を同一の林業事業者が請負うことになり効率的な作業を行うことができた。

②販売の見込みがなく当初「切り捨て」として計画されていた町有林の間伐材が有価で販売できた。

③森林所有者が木材収入を得たという成功体験から、民有林での利用間伐が推進しやすくなった。

④ストックヤードの活用によって国有林材の販路が広がるなど有利な販売ができた。



上空から見たストックヤード



ストックヤードに搬入された町有林材

今後の展開

協定3者ではこれまでに路網の共同整備・利用、ストックヤード整備を進め、令和3年度はついに共同販売による協調出荷が実現できました。需要地から遠く、比較的小規模な町有林の木材も、国有林材と合同で公売にかけ、大ロット化することで有利販売につながられたことから、今後はこのような取組について周辺地域にも普及を図って行きたいと考えています。